

本校教育を支援していただいている方の声



銅駝自治連合会会長
石橋陽さん

2019(令和元)年は「銅駝校150年」の年で、11/10に記念式典や「銅駝史料館」の公開、昔の写真掲示や卒業生の語らい等を開催。「銅駝校150年のあゆみ」も実行委が発行。「銅駝校200年」に向けて「銅駝の歴史を

未来につなぐ」をスローガンに取り組みます。

銅駝校の歴史は1869(明治2)年に上京31番組小学校として寺町二条南東角に開校。地元の有志が主に寄付をして立ち上げたもので、当時は明治維新により天皇が東京へ移り、京都は人口減少・経済不況に見舞われたので次の世代を担う人づくりに取り組んだものです。

1875(明治8)年には横村正直京都府知事が「銅駝小学校」と命名。「銅駝(どうだ)」という名前は古代中国の都で西域に向かう門のそばに銅の駱駝像があり、その都にならって造られた平安京でも、二条から中御門あたりまでを「銅駝」と名付けていたことに由来します。

その後、1892(明治25)年銅駝尋常小学校と改称、戦後に銅駝中学校になり、中学校統合で1980(昭和55)年4月に銅駝美術工芸高校が開校され、現在に至っています。

地元とは長く続いた「似顔絵教室」でモデルになったり、御所東小学校が開校になり通学路の安全のために「飛び出し坊や」作成を依頼等での交流や「美工作品展」には地元住民も多数足を運び、素晴らしい作品に感心しています。

1939(昭和14)年に竣工した現校舎も歴史的建造物として評価も高く、近くの高瀬川界限、鴨川等その昔「銅駝観(近衛家高殿からの眺め)」といわれた風光明媚な所にあり、都心部とは思えないほど自然環境に恵まれた地域で画材にはことかかない美術高校です。



京都パレスライオンズクラブ会長
和田康夫さん

私達ライオンズクラブは、社会に対し、奉仕する事を目的とする団体なのですが、単なる奉仕活動ではなく、京都の文化、芸術を将来担ってくれる人に育てて欲しいという希望から、銅駝美工さんのお付き合いが始まりました。

色々な事を考え表現し、創造していくのに、若い感性の豊かな時に、やはり本物に触れ、観ておくということが大事であり、そのお手伝いになればと芸術の宝庫であるヨーロッパへの派遣という事業を開始しました。

私達ライオンズクラブは、その年毎に事業の見通しや決定を行っています。その中で、銅駝美工さんとは早や23年の間、途切れることなく良好な関係が続いております。毎年、派遣生の面接選考、そして、2月には壮行会、5月には帰国報告会と一年の行事の様になっております。そして、その帰国報告会に於いては、回を重ねる度に充実したものになってきていると感じられます。

また、ヨーロッパ派遣事業に参加された生徒さんは、その後、進学されたり、色々な職業につかれて、銅駝美工で学んだことを生かしておられると聞きおよんでいます。ましてや、芸術、美術の世界で活躍されている方も出てこれたと教えていただいた時には、私達の事業がその一翼を担っているのだらうと思うと誇らしく思います。

銅駝美工の生徒さんには、胸いっぱい入り切れないほどの夢を持って、未来に羽ばたいて頂きたいと願っております。

今後共、この良き関係を継続していただき発展していく事を願ってやまなものです。



御所東コミュニティ
芸術・科学部門部長
出雲路敬栄さん

私は京都市立御所東小学校の児童の保護者で、御所東コミュニティの一つ芸術・科学部門の部会長をさせて頂いております。このコミュニティとは学校教育を地域が支え、学校と連携して地域で児童を育てる取り組みで、京都の小学校の伝統です。地元の史跡を訪ねる、花を育てる、国際感覚を磨くなど地元民が関わる各部会の企画があります。この小学校は平成30年に開校したばかりでしたので、当部会は小学校側の提案もあり、銅駝美工との連携をお願いする事になり快諾頂きました。

この度開催した企画はiPadでコマ撮りの写真をつなげてショートムービーを作成する内容でした。児童も高校生も共に楽しめて達成感ももてる事を目的としました。参加児童約30名を5班に分けて班ごとに高校生2名ずつ担当してもらい、ストーリーやアイデアを話し合っ

て実際の撮影に入るとい流れです。初めて顔を合

わす中でうまくいくのか多少不安でしたが、15分ほどで各班が撮影に動き出して、当校の運動場や教室をフルに使い、それぞれ面白い作品を作ってくれました。高校生の優しい対応もあって児童らは楽しい様子で、高校生の方も「小学生の発想が面白くて楽しかった。」と一様に喜んでくれました。校長先生をはじめ高校側のご協力



卒業生保護者
小西愛子さん

には3人の娘がおり、長女と次女が銅駝美工の出身者です。長女が染織専攻、次女がデザイン専攻でした。それぞれ芸術大学に進学しました。今はもう社会人です。

銅駝美工は美術工芸を学ぶ専門の京都市立高校です。全国でもめずらしい高校です。

制作や学科の勉強はもちろんのこと、文化祭の取り組み、文科系のクラブ活動、地域に根差した活動も多く、一年を通して充実している高校です。1年生で基礎を学び、2年生からは専攻に分かれて専門の先生から学びます。制作は困難も多くありますが、時には仲間と共に難を乗り越え、娘たちは成長していきました。その仲間とは何年経っても繋がっています。これからもうずっと一生繋がっていくのだと思います。銅駝美工は勉強や制作だけでなく、生きる希望と力をくれる恩師に出会い、楽しい時には一緒に笑い辛い時には支えあえる仲間ができる素晴らしい高校だと思います。だからといって誰にでも合うという訳ではありません。三女にも勧めてみましたが、本人の意志で自分の道へ進んでいきました。

よく「美術系はお金がかかるでしょ?」とか、「2人も行って芸術一家なの?」とか聞かれます。中には、そういった関係の家業の方もいらっしゃいますが、うちはそうではありません。公立の高校なので莫大な費用も掛かりません。

受験は年々かわっていくので、古い情報や間違っ

た噂にとらわれることなく、オープンスクールや説明会などに足を運んでもらって自分で見て聞いてその時々